

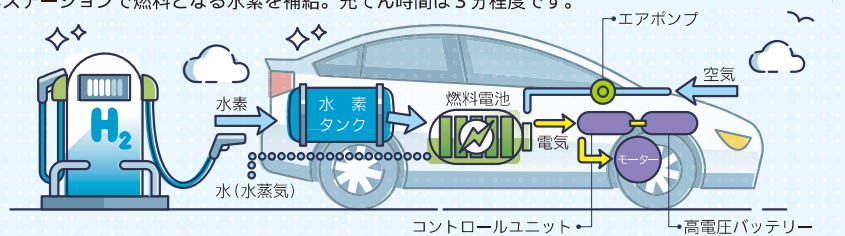


燃料電池自動車の仕組み

水素と酸素の化学反応によって発電した電気でモーターを回転させて走行します。

特長

- ・ 走行中、CO₂ を全く排出しません。
- ・ ガソリン車と比べ、走行時の騒音・振動が少ないです。
- ・ 1 回の燃料供給で、ガソリン車並みの長距離走行が可能。
- ・ 水素ステーションで燃料となる水素を補給。充電時間は3分程度です。



水素エネルギー施設・FCV公用車



鹿児島市の「かごしま水素ステーション」

2020年4月に開所した「かごしま水素ステーション」。鹿児島県初の商用水素ステーションであり、今後の九州南部における水素モビリティ発展のための要となります。



鹿児島県のFCV公用車

県では、県民への水素エネルギーやFCV（燃料電池自動車）に対する理解促進と普及啓発を図るため、公用車としてFCVを導入しています。FCVはCO₂を排出しないことから、地球環境に優しく、エネルギー源の多様化にも貢献すると考えています。県民に水素エネルギーを身近に感じていただけるよう、公務での使用のほか、様々なイベント等で展示をして、FCVの普及啓発に取り組んでいます。



「離島の取り組み」

全国でも有数の離島県である鹿児島県。

離島では、CO₂ 排出量が大きく高コストの火力発電（ディーゼル発電機）に依存しているところが大半であるが、系統が脆弱のため、再生可能エネルギーの大幅な導入拡大が困難な状態にあります。そのような中でも、地域の特性を生かした取り組みが行われています。



サトウキビのしぼりかす(バガス)を使った発電 ※種子島・新光糖業

サトウキビのしぼりかすを「バガス」と呼びます。このバガスは、ボイラー燃料として使用され、発生する蒸気で工場内全ての電力を賄う発電機や圧搾機のタービンを動かします。また、蒸気は熱源としても利用されています。耕畜連携を目指す新光糖業ではボイラー燃料に使用されずに余ったバガスを、堆肥センターや農家の皆さんに販売し、家畜の敷料として使用したり、堆肥となつてきび畑に還元されることを目指しています。



西之表市の公共交通のEV化実証事業 ※種子島・西之表市

西之表市では、交通・エネルギーの面に着目し、カーボンニュートラル社会の実現に資する島内モビリティの社会実装を目指した実証事業を行っています。西之表市内全域を網羅するデマンド型乗合タクシー「どんがタクシー」の一部車両にEVを導入し、車両の充電をサービスステーション隣地等で行い、EV化によるCO₂ 排出量削減効果、公共交通機関維持にかかる地方自治体の財政負担の低減効果、またサービスステーション隣地等におけるEV充電サービスのオペレーション等を検証します。実証後には蓄積したデータを活用し、島内の再生可能エネルギーの開発やその電力を活用した充電設備の整備などを検討していく予定です。

